

猿害が増えた原因

サルは稲、サツマイモ、大根など、ほとんどの農作物を好んで食べます。田畑は荒らされ、収穫ができなくなるのは農家にとって大変深刻な問題です。

「農業をしている者にとって、野生動物の問題は切っても切れない関係です」と話す明石さんもシイタケ栽培を家業とし、猿害に困っているひとりでした。サルどこネットの活動に関わるようになったのも猿害対策を始めたことがきっかけだったそうです。

猿害が増えた原因として、地球温暖化の影響や里山の土地開発など、様々な要因が挙げられます。そのなかでも山で暮らすサルが人里へ下りてくるようになったのは、農業形態の変化によるものではないかと考えられています。

山村地帯では過疎化が進み、農業に従事する人が少なくなっています。農業の機械化によって一日中、田畑で作業をする人の光景も昔ほど見られな

くなりました。サルにとって大敵であった人間が里山や田畑へ入ることが少なくなり、山で暮らしていたサルにとって「人里は安全においしいものが食べられるエサ場」と化してきたのです。

このような人間の生活の変化によって、山を行動域としていたサルと人間の生活域である集落との間にあった境界線が今、なくなってきました。

さらに人里近くで農作物を食べている母ザルは栄養状態がよく、出産回数が増えます。そのためサルの数は増加傾向にあり、猿害を拡大させています。

サルどこネット「サル位置情報システム」

群れの動きを知って、猿害対策を！

サルどこネットが提供する「サルの位置情報」は各地の調査員によって日常的に群れの追跡調査が行われ、その都度発信されています。

調査はまず、受信器を積んで車に乗り、群れが居そうな場所へと向かいます。電波発信器から発する群れごとの周波数の電波を受信して、次に指向性のあるアンテナを用いて方向を特定し、段々と目指す群れの位置を探っていきます。

そして調査員が群れの位置を確認すると、携帯電話などで情報の取得と送信を行います。この位置情報データは誰でも携帯電話お



写真提供：サルどこネット 山腰さん



写真提供：サルどこネット 山腰さん



3



サルの位置情報がわかる！

- ホームページでいつでも閲覧可能！
MapInfo版 <http://www.sarudoko.net/>
GoogleMap版 <https://sarunet.sarudoko.net/sarunet/>
YahooMap版 <http://www.sarudoko.net/moon/view.cgi>
- Twitter発信中！ [@sarudokonet](https://twitter.com/sarudokonet)
- サルどこネットホームページ <http://www.sarudoko.net/venus/>

よびパソコン上で閲覧することができるようになりました。

実際に情報を受けている農家の人は、自分の畑にサルが近づくと、できるだけ畑に居るようにして未然に被害を防ぐようにしているそうです。

調査を行っている山腰さんは「自分の集落を行動域とするサルの群れの動きを知り、地域ぐるみでの対策を立てるためにサルどこネットからの情報を利用してもらえたら」

と話してくれました。

効果的な猿害対策の方法は地域によって異なり、一部の人がだけで対策を行うのには限界があります。「サルの位置情報」を共有することによって、猿害を地域の課題として認識し、地域単位で具体的な対策を立てていくことが望まれます。

①②サルによる被害は農作物や人家でも見られます。
③アンテナで群れの位置を確認する明石さん。